

## 第五章 創立一二〇周年と現況

### 一 概要

平成一六年の福井豪雨や二二年の東日本大震災、二五年の台風三〇号による伊豆大島の土石流被害など、各地で起こる地震、ゲリラ豪雨、巨大台風など頻発する自然災害や、平成二〇年のサブプライムローンの破綻に始まり、世界の経済に打撃を与えた金融危機や東日本大震災の津波によって起こされた福島の原発事故などの人的災害が日本経済に停滞をもたらした一〇年であった。

この影響でバブル崩壊から立ち直りつつあった日本経済は再び停滞し、「派遣切り」や「計画停電」などという言葉が流行語になるほど私たちの生活にも大きな影響を及ぼした暗い時代であった。

しかし、このような情勢の中でも本校では、福井豪雨では生徒や教職員が数次にわたりボランティア活動を行った。東日本大震災においては、震災八日後には生徒会による駅前での街頭募金活動を行ない、ひき続き農文祭でのバザー、教職員による寄付、教職員有志の現地ボランティア活動などの支援活動を行ってきた。また、不況による求人減少も、進路指導部を先頭に全職員による求人開拓、手厚い進路指導などにより希望者全員の就職を実現している。

このように国内外の困難な状況に前向きに立ち向かっている本校であるが、学校の活動においては、一一〇年の頃に改革されたものを改善しながら充実させていった一〇年であった。

施設では、畜舎の改修、成鶏舎のリフォーム、パソコン室の改修と共に、第一体育館、産振実習教棟（第四教棟）東側の耐震補強が行わ

れ、安全な教育環境が整えられた。

修学旅行は、北海道でのファームステイが定着しているが、日程が三泊四日に短縮される中で交通が便利な地域でのステイに変わっていった。

部活動は、相撲、レスリングが部員不足に悩みながらもインタハイや国体に出場しており、特に相撲は平成三〇年の福井国体の強化校に指定されている。また男子バレー部も平成二五年は新人戦、春高バレーで準優勝という活躍をした。野球部は平成一九年秋季大会ではベスト四となり、北信越大会出場を果たし、二二世紀枠候補校（福井県推薦校）に選出された。二五年選手権大会では二試合連続のサヨナラ勝ちで「農林旋風」をおこし、ベスト四となった。一方、文化部でも郷土芸能部が平成一九年の全国高校総合文化祭での最優秀賞受賞をはじめとした安定した活躍をしている。二二年には福井市文化奨励賞を受賞した。農業クラブでは環境土木部が平成一八年に日本水大賞を受賞した。国際交流に関しては、インドネシア共和国タンジュンサリ農業高校との交流が、隔年毎にタンジュンサリからの短期留学生の受け入れ、本校から農業研修生派遣という形で続いている。受け入れは八回、派遣は一〇回目となった。

平成一六年～一八年はキャリア教育推進地域指定事業実践協力校、一八年～二〇年は目指せスペシャリスト研究開発校、二四年～二五年はNIE実践指定校、視聴覚教育研究大会（福井・吉田大会）の高校の部研究委嘱校としてそれぞれの分野での研究を発表し、生徒の学力向上に寄与した。特に目指せスペシャリストでの成果は二三年より「食

と農業」という全学科共通の学校設定科目の開講につながった。

また、平成一九年には啓蒙小学校や県農事試験場、啓蒙壮友会との協力で伝統野菜「新保ナス」を復活させ、二〇年「うららのドレッシング」、二二年「福農ベジかけ」の商品化を果たすなど平成九年から続いているふれあいマートとともに地域への貢献は拡大している。

さらに、平成二五年度に、長年にわたる三年間通しての系統的なキャリア教育の実践、地域・企業と連携した取り組みが認められ、「キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受けた。

平成二四年には制服改訂委員会を発足させ、二六年度新入生からの新たな制服を制定し、一二〇周年記念式典で発表した。新制服は男子はネクタイ、女子はリボンを締め、夏服も指定した。

P T A 活動も活発に行われ、特に農文祭でのそばのふるまいには多くの保護者の参加で行われ、訪れる人を楽しませている。

## 二 記念行事及び記念事業

### (一) 記念行事

記念式典は一月二日(土)、全校生徒・教職員による「木を植える」の合唱で幕を開け、午前一〇時、開会の辞、国歌斉唱に続き、学校長式辞、次いで実行委員長木村市助氏、P T A 会長尾川正巳氏の挨拶、福井県知事西川一誠氏、福井県議会代表山本芳男氏の来賓祝辞をいただいた。続いて祝電披露、部活動功労者表彰として四六年間茶華道講師をしていただいた野坂千枝子氏、三六年間琴講師をしていただいた永田雅秀氏のお二人を表彰した。その後、生徒を代表して前期生徒会長山田太貴君が喜びの言葉を述べ、厳粛なムードの中、滞りなく式典が執り行われた。

式典に続いて第二体育館に会場を移し、農友会の田辺甚兵衛氏の相撲甚句に合わせ、西川知事をはじめとする来賓の方々や農友会の豊田三郎画伯による餅つきがあり、搗かれた餅、そば、豚汁の会食があった。

午後からは、ダニエル・カール氏による「オラの愛する元気な日本」と題する記念講演があった。講演の中でカール氏は「日本には誇るべき素晴らしいものがたくさんあるので、もっと外国人に自慢していい。一方日本人は、自分のことは謙遜したり、はつきり言わない婉曲表現や『あれ』『それ』という指示語の多様な曖昧な表現を好む。これらは外国人には通じないので、外国人と接する際には気をつけて欲しい。」と外国人の立場から国際化社会に生きる日本人として留意すべきことを話された。続いて、過去、現在、来年度採用の制服・体操服を生徒がモデルとなって披露した新制服発表会が行われた。その後、邦楽部、郷土芸能部による祝賀演奏が演じられた。

### 記念式典

場所 第一体育館

#### 式次第

開会の辞……………一〇時

国歌斉唱

式 辞

挨拶

来賓祝辞……………知事、県議会代表

来賓紹介

祝電披露

部活動功労者表彰  
生徒喜びの言葉……………生徒会代表  
校歌斉唱  
閉式の辞



(二) 記念事業

創立一二〇周年の記念事業として、一月二日(土)から四日(月)まで農友会館二階で豊田三郎画伯個展「豊田三郎の世界」が開催された。「春陽」「吹雪」「樹陰清流」など素晴らしい絵画二七点が展示されたほか、現在使用されている絵の具やパレットなども展示され、一〇五歳になってもお元気に活躍されているお姿がうかがえる展示であった。さらに学校記念事業として視聴覚機器一式が農友会より学校に寄贈された。一二〇インテュスクリーンとプロジェクター天井吊下げ設備を視聴覚室と農友会館に、音響設備一式を農友会館に設置していただいた。これは一月二日(木)に開催された視聴覚教育研究大会(福井・吉田大会)の公開授業発表校となったので、それに合わせた環境整備として購入していただいたものであり、大会当日の公開授業や研究会をはじめ、授業・集会などで大いに活用されている。



一二〇周年記念式典

式 辞

学校長 長谷川 俊基

菊香るこの佳き日、福井県立福井農林高等学校創立一二〇周年記念式典を挙行するにあたり、福井県知事西川一誠様、福井県議会議員山本芳男様、福井県教育委員会教育委員長川畑紀義様、福井県教育委員

会教育長林雅則様をはじめ、本県各界より多数の方々の御臨席を仰ぎ、農友会、PTAの皆様方の御支援を得て、かくも盛大に式典を挙行できますことは、本校生徒、教職員にとりまして最も喜びとするところであり、かつ光栄に存する次第であります。

高いところからではございますが、御臨席の皆様には、謹んで厚く御礼申し上げます。

さて、本校は明治二六年に県議会で農事講習所の開設が決議され、翌年、福井市日ノ出下町に開所しております。明治三二年には実業学校令の公布に伴い、当時小浜市竹原にあった分校の水産科を「県立小浜水産学校」として分離独立させ、本校は校名を「福井県立福井農学校」と改めました。明治三五年には、町屋への移転という大事業がなされました。

さらに、明治四一年に福井県立福井農林学校と改称し、本県唯一の農業教育の場として、ますます発展の道を辿っております。農林学校の初期の頃には、県内各地で農事巡回講習を開き、本校が一般農家に対しても、農業技術の普及に貢献したという歴史があります。

この福井農林学校という校名は戦後の学制改革まで約四〇年間続き、県民に深く親しまれてきました。卒業生も増え、各地で同窓会を組織し、農業技術の普及に活躍しております。明治の終わりには、「農友会」として設立されました。

今から七二年前の昭和一六年に町屋より、現在の新保地区に移転されました。本校前庭の樹木の大半は当時の生徒の手によって移植され、今日の大木に成長しているものであります。

昭和二三年に、県立工業学校を合併し、福井第二高等学校となり、翌二四年には、農業、家庭、普通の課程を設置して、福井県高志高等学校と改称されました。昭和二八年になり、高志高等学校から分離独

立して、現在の福井農林高等学校が誕生したのであります。昭和三〇年には、都市近郊園芸の振興をねらいとして園芸科を設置するなど、独立後約半世紀近く、種々の教育推進に専念してまいりましたが、二一世紀という新たな世紀を迎えるにあたり、時代の進展と社会情勢の変化に対応すべく平成四年に学科改編を行い、生物生産科、環境工学科、生活科学科、生産流通科の四学科を設置し、今日に至っています。本校一二〇年の歴史の中で、二度にわたる校舎移転、幾たびかの校名変更、さらには戦時中の学徒動員、終戦・学制改革と福井震災等々、幾多の変遷がございました。

このような苦難と試練に耐え、農業教育の大道を歩み続けてこれきたのも県御当局の御尽力、御支援のもと、また、多くの先輩たちの並々ならぬ御苦勞、地域の皆様の御理解によるものと感謝の意に耐えません。

本校が、世に送り出した生徒はおよそ一四、〇〇〇名を教え、卒業生の各位は、農業はもとより、政治、経済、教育、文化のあらゆる分野に活躍の輪を広げ、その実力を発揮し、着々と成功を収めておられることは、誠に喜ばしいことであり、また本校の誇りでもあります。

現在、本校は多くの専門教育用の校舎と農業施設を有し、生徒の実験・実習用の農場、一三〇haの演習林を有する自然豊かで大変恵まれた教育環境の中にあります。「大地に生きる」の校訓のもと、新しい時代の「生命産業」を担う、将来のスペシャリストの育成、産業界の担い手育成を目指し、専門教育のより深化を求め、取り組んでいるところでございます。目指せスペシャリストやスーパーサイエンスクラブでは福井県立大学と、またポストコシヒカリ研修などにおける福井県農業試験場との連携教育の実施、さらに、インドネシア農業研修生派遣をはじめとする国際理解教育の推進、北海道修学旅行でのファー

ムステイなど、本校の特色ある取り組みができますのも、県御当局の御配慮と、平素より賜っております地元地区各位の御愛顧と御協力のお陰でありますとともに、福井県農友会、PTAの御厚情によるものであります。重ねて、県御当局をはじめ、皆様方に深甚の感謝を申し上げます次第であります。

さて、生徒の皆さん、今日この記念すべき日に当たり、次のことを心してほしいと思います。まず本校創立一二〇年、全国の農業高校の中でも一番目という、歴史と伝統を築いてこられた諸先輩への感謝であります。今日まで、先輩諸氏が努力に努力を重ねて築かれた幾多の価値ある伝統をしっかりと守り、より充実していかなければなりません。そのためには、一人一人が自己を高め、社会のために有意な人間に成長していくことでもあります。

現在の社会情勢は、日本だけでなく世界全体が大きな変化の中にあります。大きなうねりの中で流されず、逞しく生きていく力をしっかりと養い、心身共に健全で心優しい誠実な産業人として活躍することを心に誓ってください。生き物を教材として、本校で学習している皆さんは、命の大切さを知り、生きる力と心豊かで誠実な人間性を十分に育んでいるものと確信します。福井農林高等学校で学んだことに自信と誇りを持って、着実に歩んでほしいと念じております。

この一二〇年という新たな節目を契機とし、二一世紀の農業教育の単独校として、次の一〇〇年を目指し、新たな福井農林高等学校の伝統を創造して行くべく、生徒教職員が一丸となって、更なる努力、精進いたす所存でございます。

終わりにあたり、本日ご列席をいただきました皆様方に、心より感謝を申し上げますとともに、今後ともより一層の御指導と御鞭撻をたまわりますようお願い申し上げます。

## 実行委員長挨拶

創立一二〇周年記念事業実行委員長 木村 市助

今回、福井県立福井農林高等学校創立一二〇周年の記念行事を開催するにあたり、実行委員長をおおせつかりました木村でございます。

実行委員会を代表して一言皆様方に御挨拶を申し上げます。本日は、創立一二〇周年の記念式典を開催いたしましたところ、福井県知事西川様をはじめ、多数の御来賓の方々の御臨席をいただき、盛大に記念式典を挙行することができましたことを、皆さんと共に喜びたいと思います。

創立一二〇周年を迎えます本校は、遠く明治二七年農事講習所として開所して以来、戦前・戦後の昭和、平成と激動の時代を乗り越え、今日まで長い農業教育の歴史を刻んでまいりました。

この間、福井県内はもとより、日本国内の各界各層に多くの人材を輩出し、戦争、経済不況などの困難を乗り越えながら、関係各位の御尽力によりまして、社会や地域に貢献する、福井農林高等学校の歴史と伝統を刻み発展してまいりました。

このたび、創立一二〇周年の節目に当たり、記念誌の発行などの事業に取り組んでまいりました。この佳き日に農友会会員の皆様が一堂に会し、心のふるさと我が母校で学び過ごした思い出や、熱き青春の日々を心よみがえらせながら、永遠に心に刻んでいただく機会にしたいだければと念願しております。

最後に、このたびの一連の記念事業を進めるに当たり、御協力御支援を賜りました多くの関係各位に心より深く感謝申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

## P T A 会長挨拶

P T A 会長 尾川 正巳

福井県立福井農林高等学校創立一二〇周年の記念式典が挙行されるにあたり、P T A を代表して一言御挨拶申し上げます。

この度、本校が明治二七年の創立から一二〇年を迎えられますことは、誠に感慨深く、心からお慶び申し上げます。

ここまで至りましたことは、地域の方々、農友会の皆様方、校長先生を中心とした教職員の方々、そして、保護者の皆様、また、関係各位の皆様の御尽力の賜と敬意を表する次第です。

「大地に生きる」を校訓に農業教育校として発展をされて、これまでに多くの卒業生が県内外を問わず各界で活躍しておられ、社会に大きく貢献されていることは誠に喜ばしく、誇りに思います。

本校の特色でもあります、この恵まれた自然環境のもと、教室での授業に加え屋外での田畑の作業や樹木の手入れなどの実習により、自然の大きな力を感じ取っていることでしょうか。自分たちが手をかけたものが成長していく過程を直接見ることで、生物を育てていく上での苦労や実を付けた時の喜びを感じ、またそれらを食することや、地域の方々に購入していただくことで、生物や地域の方々への感謝の心が養われるのではないかと思います。

このような体験が、心豊かな人間形成に繋がっているのではないのでしょうか。

これからも、生徒の皆さんは、先輩方が作り上げた伝統を継承して、今日から新たに福井農林高校の歴史の一步を刻み、なお一層の躍進を求めています。

保護者といえども、先生方と共に生徒達のよりよい高校生活

が送れる環境整備の支援をして参る決意を新たにしているところです。最後に、福井農林高等学校の更なる発展を心よりご祈念申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございます。

## 祝 辞

福井県知事 西川 一誠

みなさんおはようございます。今日は福井農林高校創立一二〇周年の大変おめでたい式典でございます。みなさんとともに御一緒に喜び合いたいと思います。

今回一二〇年という、大変長い歴史を刻んでこられましたのは、生徒のみなさんや卒業生のみなさん、そして学校のみなさんあるいはP T A のみなさん、さらに地域のみなさんの大きな協力と支えによってでありまして、この支えによって一二〇年という素晴らしい式典を迎えられたと思います。こうした皆様方の御努力に深くお礼を申し上げますと思います。

ただ今長谷川校長先生や木村実行委員長さんや尾川P T A 会長さんからいろんなお話がございましたので、今日は祝辞を持ってまいりましたが、お話が重なるような感じになりますので、ちょっと違う話を申し上げます。

私は四〇歳ちょっと前から家庭菜園をやっています。もう年が福井農林高校の半分以上の年になっておりますので、三〇年くらい家庭菜園をやっています。ちょうど今、借りている畑では白菜がばつと広がっていますし、大根がちょうど白い茎を土の中から伸ばしているところなんです。一年間に二十数種類野菜を作ります。お米や麦は作り

ませなければ野菜を作ります。西瓜とか瓜とかメロンとか、あるいはイチゴ、ピーマン、トウモロコシ、サツマイモ、ジャガイモ、いろんな物を作ります。最初どういうことから始めたのかということなんです、三十何歳のころ子どもが生まれまして、「ジャックと豆の木」という絵本を子どもに読んだんですが、どんどん上の方に伸びていくのだけれど、それを説明していくので、初めてキュウリを軒下に植えました。で、ぎゅーっと屋根のほうまで伸ばしてですね、「ジャックと豆の木」の豆は、きつとこのキュウリの枝みたいに伸びたんだよということの説明しました。これがきっかけで家庭菜園を始めたのです。それが今日まで続いています。私は、こういう仕事ですからストレス等たまりませんが、農業的なことを、土日ちよつと三〇分くらいずつ、あるいは五月の連休にちよつとまとめてやりますけど、「楽しみ」とか「気持ちの安らぎ」、そういうことになっております。その時いつも思うんですが、もうちよつと農業のことを勉強しておくのと良かったんだがなあと。いろいろな知識がありませんので我流でやっておりますが、三〇年くらいやると我流でもある程度上手くとれるようになっていきます。そして福井農林高校は、農文祭というんでしょうか、今日明日でしようか、それから一六日にはAOSSAで坂井農業高校などと一緒に生産物販売をやると思いますけれど、何時もシクラメン、鉢一五〇円だったと思いますけれど、何鉢か買わせていただいています。そのほか、こういう鉢にですね、柿の木を植えたり、あるいはミカンを植えたりしております。柿の木は次郎柿ですが、去年からなるようになつたんですが、平成一七年に植えて七年目になるのですが、今年もなりました。ミカンがようやく今年これくらい大きくなりました。去年までは、これくらいだったんです。昨日初めてもぎましたけれどもまああの味になっています。

このように農業というのは、これから非常に大事だと私は思っています。県のいろんな仕事だけでなく、教育でもあるいは製造業とか商業とか、みんな農業と関わるようになると思います。ですのみならず是非ともこの福井農林高校で農業などいろんなことを学んで下さい。それがみなさんの就職やあるいは進学等に直ちに役立つかどうかかわりませんが、だんだん役立つようになると私は思っております。それは、私自身の経験から思うのです。

それからもう一つ皆さんにやってほしいことがあります。今日はダニエルさんが講演をされるようでありませうけれども、外国語、英語ですね、中学校からやってこられたと思えますけれど、まだ、きつとみなさん十分に聞いたり特に話すことが難しいのじゃないかと思えます。しかしこれは一日一五分、あるいは三〇分くらいいいですから、嫌になつてしまふかも知れませんが粘り強く勉強していただくと、きつと物になるんじゃないかと思えます。私は、四年前からNHKラジオの基礎英語を車の中で聞いています。中学生用でありますけれど、四年間一五分とか三〇分くらい聞いていますと、最近、ちよつとニュースを聞いたり、あるいは映画を見てみると何となく「あつ！こういうこと言っているな」ということがわかるようになってきました。聞いたり自分でラジオで話したりするとそういうふうになりますから、これ間違いありません。学校の勉強以外にも是非とも外国語の勉強をして下さい。それはこれからみなさんが、就職されたり、あるいは進学されたりするかと思いますが、外国語の名簿をちゃんと作れる、あるいは格好良くしゃべれるという時代にきつとよくなると思いますので、是非とも実行して下さい。少し時間がかかります。一年では難しいと思います。早くて数年かかると思えます。これは誰にでもできることだと思います。そういう考えで、みなさんが福井農林高校で学ぶこと

は一杯ありますが、さらに外国語の勉強を積んでほしい。

以上、そんなふうに通っておりますので、今日はこの二つのお話し、農業、みなさんがこの学校で学んでいる農業のことを一生のこととして考えて大事に勉強してほしいということ、外国語を勉強してほしい、この二つを今日お話ししたということでありませう。

どうかみなさんにはこれから、大いなる将来があるわけでありませう。「あること」に心を決めて頑張ってください。そして皆さんの力で、このわれわれのふるさと福井が日本一しあわせな県になるように私は願っております。

一二〇周年誠におめでとうございます。心からお喜び申し上げます、御挨拶にしたいと思います。

## 祝 辞

県議会代表 山本 芳男

錦秋の砌、本日ここに福井県立福井農林高等学校の創立一二〇周年記念式が、このように盛大に挙行されるにあたり、福井県議会を代表して一言お祝いを申し上げます。

福井県下で二番目に古い歴史と伝統を誇る御校は、明治二七年に農事講習所として創立されて以来、一二〇周年を迎えられました。その間、農業界はもとより、各界において活躍する人材を、全国にまたがり輩出されております。また、長年にわたり教育界に多大の貢献をしておられることに對し、心から敬意を表するとともに、教育・運営に携われた関係者の方々の御努力に對し、深く感謝申し上げます。

さて、近年、我が国の社会情勢は、少子高齢化、国際化、そして、高度情報化の進展など、めまぐるしく進展しており、このことは学校

教育にも大きな影響を与えております。また、一方で、一日も早い開業が強く望まれていた北陸新幹線をはじめ、来年夏全線開通予定の舞鶴若狭自動車道や、着実に整備が進む中部縦貫自動車道、また、福井駅部高架化事業などの高速交通体系の整備により、本県は新たな時代を迎えようとしています。こうした中、県下の高等学校がそれぞれの特徴を生かし、理想を持った教育を進めることは、明日の福井県を担う青年県民を育成していく上で、大変重要なこととございます。

御校が、「大地に生きる」という校訓に言い表されるように、「命をいづくしみ、育む」という農業の原点にたつて、将来の農業を先導する獨創性豊かな農業技術者を育て上げられることは、大変意義深いものであり、農業のみならず、郷土芸能部の活躍、インドネシア研修交流、国体二巡目の相撲部重点強化校指定と、幅広い分野に進出しており、「自然に親しみ、大地を踏みしめ、誠実に生きる」という教育方針の下で養われる豊かな感性は、今後、次世代を担い活躍していく上で、欠くことのできない資質であると思えます。

生徒諸君には、「土を愛し、空を我が物とせよ、君たちに幸あれ」どうか、創立一二〇周年という輝かしい歴史の上に立ち、母校への自信と誇りを胸に、福井農林高等学校の輝かしい伝統をさらに高めていただくことを念願する次第でございます。県議会といたしまして、担い手が希望と誇りを持って営農にいそむことができる農業の確立と快適な教育環境づくりに、今後とも鋭意努力を重ねてまいる所存でございます。

結びにあたり、福井農林高等学校のさらなる躍進と、本日御参会の皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

本日は誠におめでとうございます。



## 喜びの言葉

生徒会代表 山田 太貴

菊の香り高く薫る今日の佳き日、創立一二〇周年を迎えましたことは、私達在校生一同にとっても大きな喜びです。ただいまは西川県知事様を始め、御来賓の方々に御祝辞や激励のお言葉をいただき身の引き締まる思いです。

さて、私達は「大地に生きる」の校訓のもと、多くの実習・学校行事そして部活動を通し、充実した学校生活を過ごしています。私ごとになります。私は環境工学科に入学し、野球部に所属してきました。環境工学科では、充実したカリキュラム・熱心な補習等の中で専門教科を徹底して学び、測量士補をはじめとする数々の資格を取得できました。さらに礼儀も身につけることができ、心から満足のいく就職内定をいただけたのはこの学科を選び入学したからです。思い返せば一年次の演習林実習、はじめての測量体験で、こうやって道ができ、日本ができていくのだと実感しました。丁度私達の合格発表の日には東日本大震災の日だったこともあり、日本を再び作り上げていくことに貢献できる、そんな熱い思いをもってこれまで学んでくることができました。

また、野球部では、本心に厳しい練習の日々でした。しかしつらさも弱さも共有できる仲間たちと励まし合いながら乗り越えてきました。その結果、なかなか勝てなかった私達が、最後の大会では逆転に次ぐ逆転でベスト四まで進出できました。いつも全力で野球に向き合ってくださった監督を始め、これまで支えてくれた大勢の人に恩返しができ、自信を持つことができました。

他にも生き物を育み仲間と協力しながら行う多くの実習、そして三

〇km歩く強歩大会、学校中が一丸となる体育祭、そして地域と交流する農文祭など多彩な行事の中でも、成長する機会が多くあります。今改めて思い返すと、生徒一人一人の顔がとてもよく見える学校だと気づきます。

本校生徒は、それぞれがこのような学科、このような部活動に所属する中で、自分が頑張れば全力で応援してもらえる恵まれた環境に学んでいるのです。男子バレー部はこの秋の大会、決勝にすすんでいます。レスリング部では国体五位に入賞しました。郷土芸能部は、太鼓甲子園全国二位になっています。各学科でも様々なコンクールに入賞し、全員が多くの資格を取得しています。こんなにも多くの生徒が活躍できているのは、ひとえに県民の皆様、地域の方々の御支援があるからに他なりません。そしてこのような積み重ねが一二〇年の歴史そのものだと思います。

今後は次の一〇年一〇〇年をめざし、もっと元気に、ますます積極的に福井を支える人材となるべく、福井農林生として頑張っていく所存です。

最後になりましたが本日御臨席の皆さまに改めて感謝すると共に、ますますの御支援御指導をお願いいたしまして、喜びの言葉といたします。